ヒヤリハット

ヒヤリハットとは

ヒヤリハットとは，大きな事故には至らないものの，大きな事故に直結してもおかしくない一歩手前の事例をいう。「子どもが急に道路にとび出そうとしてヒヤリとした」，「子どもが炊飯器の湯気に手を伸ばそうとしていてハッとした」といったように，まさにヒヤリとし，ハッとする事例のことである。こうした情報を集め，共有することで大きな事故を未然に防止することができる。

アメリカ人ハインリッヒが発表した「**ハインリッヒの法則**」というものがある。「１件の重大な事故の下には29の軽微な事故があり，さらにその下には300のひやりとしたり，はっとしたりする事例がある」というものである。

重大な事故を未然に防止するには些細なミスや不注意を見のがさず，その時点で対策を講じる必要があることを示唆している。

ヒヤリハット体験

子どものヒヤリハット体験は，飛び出し，転倒・転落，誤飲，火傷など事故防止上の観点から語られる場合が多い。

防犯上の観点から収集される体験は，「**声かけ事案**」(→p.29)と重なるものが多い。つまり，「お菓子を買ってあげる」「名前は？ おうちはどこ？ 送ってあげる」「車に乗せてあげる」「お小遣いをあげる」「お母さんが入院したから病院へ行こう」といったものである。

これらの事例が発生したら，報告書を作成する。ヒヤリハットは，事例が多ければ多いほど意味がある。同じような事例が数多く出てきたら，それだけ事故・事件につながる可能性が高いことにつながるからである。その上で対策を立て，事故・事件を未然に防ぐことができるようになる。

ヒヤリハット報告書

ヒヤリハット報告書に記入する大切な項目には，次のようなものがある。

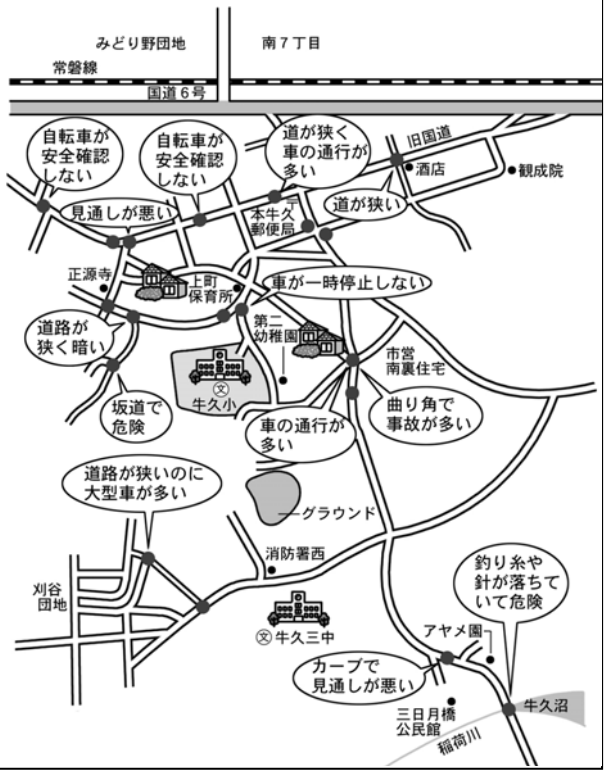
①どのような人物が関わったのか。
②時間　③場所　④状況　⑤その場の対応

①からは，関わった人物の服装や年齢等の特徴を特定できたり，共通性を把握できたりすることができる。

②や③からは，夕方に多いのかとか，どんな場所で多く発生するのかといった情報が収集できる。

また，④や⑤からは，状況，対応に即した対策を立てることができる。

ヒヤリハットマップ

下の図は，茨城県牛久市の牛久小学校区の**ヒヤリハットマップ**の一部である。このマップにもあるように，ヒヤリハットマップは，通学路における交通事故を防止するために作成される場合が多い。これに，声かけ事例が起こった場所や，不審者が発生した場所などを加えると，防犯上からも効果的なマップに仕上がる。これをもとに，地域での事故・事件防止１つの手段として役立てるとよい。

◆牛久小学校区のヒヤリハットマップ